学会等助成報告

第29回 日本熱傷学会近畿地方会

会　　長　高須　　朗（大阪医科大学　救急医学教室　教授）
事務局長　山川　一馬（大阪医科大学　救急医学教室　准教授）

日本熱傷学会近畿地方会は会員数1430名の日本熱傷学会を母学会とする臨床医学系の学術団体であり、救急医学や形成外科の横断的なアプローチを必要とする熱傷患者の様々な問題に取り組んでいます。救急医医学の中でも専門性の高い熱傷治療には、急性期の生体反応メカニズム解明、再生医療を応用した皮膚移植法、創傷治癒促進のための局所療法などの研究は欠かせません。本学会では、近畿地方の主な救急施設の救急医と形成外科医が一同に集まり、熱傷治療の急性期の蘇生的治療や局所治療、さらに回復期リハビリまで様々な局面から熱傷治療について横断的な学術的討議を行い、国民の保健・医療・福祉に寄与するため、熱傷治療の進歩発展を図り、その普及に貢献する事を目的とし、1991年に設立されました。重症熱傷の診療機会がめっきり減った昨今でしたが、京都での非常に心痛める事件もあり重症熱傷はいつ何処で発生するかわかりません。救急医学が長年培ってきた熱傷治療のノウハウを更に発展、継承することは重要なテーマで、本学会の使命もそこにあると思います。地方会ならでは「ざっくばらん」な雰囲気で議論できることも本学会の魅力です。

熱傷学会近畿地方会は年1回開催され、第29回会長を大阪医科大学救急医学教室高須　朗が務めることになり、2021年1月16日に本学キャンパスで開催するように準備を進めました。特別講演として前日本熱傷学会理事長の防衛医科大学校防衛医学研究センター外傷研究部門の齋藤大蔵先生に「熱傷治療のブレイクスルーを目指して」のご講演を予定し、近畿内各施設から14題の演題を頂きました。ところが、12月に入り深刻な新型コロナウィルス感染拡大を受け、特に医療体制の逼迫し12月3日に大阪府医療非常事態宣言が吉村知事から出されました。当教室も大阪府内発生の重症COVID-19感染の対応をフロントラインで対応することになり、その深刻な状況は肌で感じており、学会開催は予断を許さない状況となりました。既に抄録集の印刷は発注しており、会員へ郵送する段階となっていましたが、苦渋の決断として、「現地開催」は取りやめて抄録集による「誌上開催」とすることにしました。ほぼ全ての準備が整った後の決断で非常に残念でしたが、「誌上開催」として学会は成立して、その参加は日本熱傷学会の専門医関係のクレジットとしても認められることになりました。

本学会主催に際して多大なるご支援を賜りました大阪医科大学医師会の皆様に、この場を借りて改めて厚く御礼を申し上げます。